

身体 の 声 に 耳 を 傾 け て

東海大学ティーチングクオリフィケーションセンター公開シンポジウム
学校・博物館におけるユニバーサルな学びの可能性

学校教育の分野ではデジタル教科書やメタバースを利用した教育などが注目を集めている。社会教育を支える博物館の分野でもデジタル化の大きな波が押し寄せている。とはいえ、知識として情報量が増えること≠学びではない。抽象化、体系化された「知」を学ぶことによって現実を生きていくという循環のなかで人が育ってきたとするならば、いま求められるのは、体系化された「知」と現実を生きる「身体」との関係路をつなぐことである。

地球規模に膨れ上がった情報は、個人の身体活動や精神活動の許容量を途方もなく超えてしまった。そのため、現代人は、情報を処理する脳と、生命を維持し活性化する身体との関係路を分断しなければ生きられなくなった。身体との関係路を保ち続けているのは視覚障害者である。視覚を使わない彼・彼女は触覚や聴覚、嗅覚などを研ぎ澄ませながら生きている。日常的に身体が発する「声」に耳を傾けている。

AIやChatGPTを開発した私たちは、未知の領域を自分たちの知識や技術で解明できると信じて疑わなくなった。しかし実際には、例えば目が見えない人が生きる世界には、私たちの想像が及ばないような未知の領域が広がっている。本当に大切なことは私たちのもっと身近にあると思う。教師と生徒、学芸員と来館者といった関係を超えたところで他者の気持ちを考え、理解し、行動すること。自己と他者とのそうした往還的連関のなかに生身の身体を置きなおしてみることに。

今回のシンポジウムは、目に見えない世界を生きる視覚障害者の生きた言葉をヒントに、学校教育や社会教育における様々な課題について語りつくばらんに議論する、フォーラムとしてのユニバーサル・コミュニケーションである。「よりよく生きる」とか「自分らしく生きる」―視覚障害者の声は、教育の現場のみならず、いま、社会全体で考えなければならない大切なことを私たちに伝えてくれる。

2023年 土曜日

12月16日

13:30 - 17:00

場 東海大学湘南キャンパス
所 8号館 401 教室

登壇者

栗川 治

元新潟県立学校教員

広瀬 浩二郎

国立民族学博物館教授

田中 彰吾

文化社会学部北欧学科教授 / 文明研究所所長

登壇者・コメンテーター

原 礼子

元国際基督教大学湯浅八郎記念館館長代理

西本 健吾

東海大学ティーチングクオリフィケーションセンター学校教育系特任助教

挨拶

朝倉 徹

東海大学ティーチングクオリフィケーションセンター所長 / 学校教育系教授

司会

大島 宏

東海大学ティーチングクオリフィケーションセンター次長 / 学校教育系教授

篠原 聡

東海大学ティーチングクオリフィケーションセンター社会教育系准教授
松前記念館事務室長代行 / 文明研究所所員

主催：東海大学ティーチングクオリフィケーションセンター
共催：東海大学文明研究所・松前記念館（歴史と未来の博物館）
連絡先：ss062876@tsc.u-tokai.ac.jp（篠原）

ユニバーサル・ミュージアムシンポジウムとは

東海大学ティーチングクオリフィケーションセンターでは、2013年度以降、ユニバーサル・ミュージアム（誰もが楽しめる博物館）をテーマとした連続講座や公開シンポジウムを開催してきました。博物館がもっとも遠ざけてきた、視覚障害者でも楽しめる「ハンズ・オン（触る）展示」を起点に、むしろ目が見える人にこそ知ってほしい「触覚の世界」や、視覚障害者と聴覚障害者の交流、彫刻を触る鑑賞などの多様なテーマに取り組んできましたが、10年目を迎える本年度は学校教育や社会教育の現場に永年携わってきた栗川治氏（元公立高校教員）、広瀬浩二郎氏（国立民族学博物館教授）、原礼子氏（元国際基督教大学湯浅八郎記念館館長代理）をお招きします。本学からは田中彰吾、西本健吾、大島宏、篠原聰が参加します。

登壇者プロフィール



栗川 治（くりかわ おさむ）

1959年新潟市生まれ。早稲田大学第一文学部哲学専攻卒業。1982年から2020年まで新潟県の県立高校教員。20歳代後半に失明。全国視覚障害教師の会事務局長、内閣府障害者政策委員会専門委員など歴任。現在、立命館大学大学院先端総合学術研究科博士課程院生、立教大学コミュニティ福祉学部兼任講師
著書：『視覚障害をもって生きる—できることはやる、できないことはたすけあう』（明石書店、2012年）他。



広瀬 浩二郎（ひろせ こうじろう）

1967年東京都生まれ。13歳のときに失明。筑波大学附属盲学校から京都大学に進学。2000年同大学院にて文学博士号取得。専門は日本宗教史、触文化論。2001年より国立民族学博物館に勤務。現在、同博物館人類基礎理論研究部・教授。「ユニバーサル・ミュージアム」（誰もが楽しめる博物館）の実践的研究に取り組み、「さわる」をテーマとする各種イベントを全国で企画・実施。無視覚流鑑賞法の創始者。



田中 彰吾（たなか しょうご）

2003年、東京工業大学大学院社会理工学研究科博士課程修了。博士（学術）。東海大学現代教養センター教授、ハイデルベルク大学客員研究員を経て、現在、東海大学文明研究所所長。一貫して「身体性」の観点を中心に科学に導入することに取り組んできた。知覚・意識・自己・他者理解といったテーマに沿って、心の科学の基礎理論を刷新することを目指している。著書に『生きられた〈私〉をもとめて—身体・意識・他者』（北大路書房、2017年）、『自己と他者—身体性のパースペクティブから』（東京大学出版会、2022年）など。



原 礼子（はら れいこ）

東京都出身。国際基督教大学卒業。1978年より母校にて博物館開館準備に携わり、1982年より学芸員として国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館に勤務。2019年に退職するまで、主に染織品を中心とした特別展を企画。2004年からは学芸員課程の授業も担当。現在は国際基督教大学非常勤講師。



西本 健吾（にしもと けんご）

1991年生まれ。東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。博士（教育学）。現在、東海大学ティーチングクオリフィケーションセンター特任助教。専門は教育哲学・思想史。主な論文・著作に、「ブラック・マウンテン・カレッジ初代学長J. A. ライスの芸術教育思想—J. デューイの思想における共同体と個人の連関を手がかりに」（『教育学研究』第87巻第3号、2020年）、『記憶と想起の教育学—メモリーバダゴジー、教育哲学からのアプローチ』（共著、勁草書房、2022年）。

タイムスケジュール

- 13:30 ご挨拶
- 13:35-13:45 趣旨説明
- 13:45-14:15 報告①(栗川 治)
- 14:15-14:45 報告②(広瀬 浩二郎)
- 14:45-15:15 報告③(田中 彰吾)
- 15:15-15:30 休憩
- 15:30-15:45 コメント①(西本 健吾)
- 15:45-16:00 コメント②(原 礼子)
- 16:05-17:00 ディスカッション
- 17:00 終了